

校長印		教頭印		教頭印	
-----	--	-----	--	-----	--

国語科	科目名	現代の国語	担当者	
履修学科	情報技術科・建築科・インテリア科・デザイン科・調理科			
履修学年	第1学年	履修単位	2単位	
概要及び目標	1. 国語を適切に表現し、的確に理解する能力を育成する。 2. 伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにする。 3. 言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。			
評価基準及び方法	ア. 授業に取り組む姿勢 イ. 定期テストの得点 ウ. 小テストおよび課題提出			
使用教科書及び教材	<ul style="list-style-type: none"> ・新編国語総合（東京書籍） ・これからの国語シリーズ 漢字検定5～2級+短文書写 実践文字力トリプルチェック（尚文出版） ・高校国語への入門—漢字・語句中心の基礎固め—（浜島書店） ・高校国語のための導入ワーク 高校国語入門（東京書籍） 			
その他留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな視点や立場に立って考える習慣を養う。 ・語彙力の向上を図る。 			

学習計画

月	単元名	学習内容と方法
4	1 ことばをひらく ○「変わることを楽しもう」 ○コミュニケーションは技術だ	<ul style="list-style-type: none"> ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うこと。 ・話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫すること。
5	2 日本語を使いこなす ○敬語によらない「丁寧さ」 ○文を整え、文をつなぐ ○伝わるように話そう	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の情報と一般化された情報との関係について理解すること。 ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うこと。 ・目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。
6	3 わかりやすく説明する ○説明のしかたをとらえよう ○料理レシピを書こう ○ショートスピーチをしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・主張と論拠など情報と情報との関係について理解すること。 ・個別の情報と一般化された情報との関係について理解すること。 ・目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。

7	<p>4 聞く力を育む</p> <p>○ミニインタビューをしよう</p> <p>○聞き取ったことをまとめよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割，表現の特色を踏まえ，正確さ，分かりやすさ，適切さ，敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し，使うこと。 ・論理の展開を予想しながら聞き，話の内容や構成，論理の展開，表現の仕方を評価するとともに，聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすること。
9	<p>5 論理を読み取る</p> <p>○論理の展開を読み取ろう</p> <p>○オカピの胃袋はいくつか</p> <p>○水の東西</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・推論の仕方を理解し使うこと。 ・自分の考えや事柄が的確に伝わるよう，根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに，文章の種類や，文体，語句などの表現の仕方を工夫すること。
10	<p>6 伝え合いのレッスン</p> <p>○対話のレッスン</p> <p>○人間だけが「話し合い」を選べる</p> <p>○テーマを決めて話し合おう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割，表現の特色を踏まえ，正確さ，分かりやすさ，適切さ，敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し，使うこと。 ・論点を共有し，考えを広げたり深めたりしながら，話し合いの目的，種類，状況に応じて，表現や進行など話し合いの仕方や結論の出し方を工夫すること。
11	<p>○対話—まずは「聞く」ことから</p> <p>7 説得力を高める</p> <p>○意見文の基礎を学ぼう</p> <p>○反対意見を想定した意見文を書こう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文，話，文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解すること。 ・論点を共有し，考えを広げたり深めたりしながら，話し合いの目的，種類，状況に応じて，表現や進行など話し合いの仕方や結論の出し方を工夫すること。
12	<p>○人工知能が教えてくれるもの</p> <p>○ミニ討論会をしよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに，語句や語彙の構造や特色，用法及び表記の仕方などを理解し，話や文章の中で使うことを通して，語感を磨き語彙を豊かにすること。 ・自分の考えや事柄が的確に伝わるよう，根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに，文章の種類や，文体，語句などの表現の仕方を工夫すること。
1	<p>8 情報と向き合う</p> <p>○情報の力関係</p> <p>○どこもかしこもプラスチック！</p> <p>○レポートを書こう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに，語句や語彙の構造や特色，用法及び表記の仕方などを理解し，話や文章の中で使うことを通して，語感を磨き語彙を豊かにすること。 ・目的や意図に応じて，実社会の中から適切な題材を決め，集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して，伝えたいことを明確にすること。
2	<p>9 他者を動かす</p> <p>○魅力的な企画書を書こう</p> <p>○プレゼンテーションをしよう</p> <p>○相手を動かす依頼状を書こう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・常用漢字の読みに慣れ，主な常用漢字を書き，文や文章の中で使うこと。 ・目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて，文章全体を整えたり，読み手からの助言などを踏まえて，自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。

3	<p>10 社会に目を向けて</p> <p>○何のために「働く」のか</p> <p>○自分の考えをつくるために</p> <p>○自分と社会を見つめて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比喻, 例示, 言い換えなどの修辞や, 直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うこと。 ・ 目的に応じて, 文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら, 内容や書き手の意図を解釈したり, 文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに, 自分の考えを深めること。
---	--	---

校長印		教頭印		担当印	
-----	--	-----	--	-----	--

沖縄県立浦添工業高等学校

令和5年度シラバス

科目	公共	単位	2	学年	1
使用教科書	高等学校 新公共(第一学習社)			副教材等	新公共ノート(第一学習社) クローズアップ公共(第一学習社)

学習の到達目標	<p>人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

月	学習項目	■学習内容(ねらい)・評価の観点	a	b	c	評価方法
4	第1編 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち ①社会に生きる私たち ②個人の尊厳と自主・自律 ③多様性と共通性 ④伝統文化とのかかわり ⑤自立した主体をめざして	<p>■社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることを学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解している。 人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解している。 自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出し、いこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともにによりよい社会の形成に結び付くことについて理解している。 公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目して考えている。 社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。 公共的な空間をつくる私たちについて、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 ①人間と社会のあり方についての見方・考え方	<p>■古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、社会に参画する際の選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解している。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査

月	学習項目	■学習内容(ねらい) ・評価の観点	a	b	c	評価方法	
5		<ul style="list-style-type: none"> 現代の諸課題について自らも他者も共に納得できる解決方法を見出すことに向け、上に示す考え方を活用することを通して、行為者自身の人間としての在り方生き方について探求することが、よりよく生きていく上で重要であることについて理解している。 人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。 幸福、正義、公正などに着目して考えている。 倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方を活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見出すことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現している。 公共的な空間における人間としてのあり方生き方について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○				
	第3章 公共的な空間における基本的原理 ①人間の尊厳と平等、個人の尊重 ②民主主義と法の支配 ③自由・権利と責任・義務 ④日本国憲法に生きる基本的原理	<ul style="list-style-type: none"> 古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、公共的な空間における基本的原理を理解する。 各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解している。 人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解している。 幸福、正義、公正などに着目して考えている。 公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。 公共的な空間における基本的原理について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○		○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査 	
	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち						
	第1章 法的な主体となる私たち	<ul style="list-style-type: none"> 憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解する。 					
6	主題1 法や規範の意義と役割 ①私たちと法 ②法と基本的人権 ③自由に生きる権利と法・規範 ④平等に生きる権利と法・規範 ⑤安全で豊かに生きる権利と法・規範 ⑥法をよりよいものにするための権利	<ul style="list-style-type: none"> 法やルールを定める時には、どのようなことに配慮する必要があるかを理解する。 法や規範の意義及び役割に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 中学校までに学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 法や規範の意義と役割について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○		○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査 	
	主題2 契約と消費者の権利・責任 ①さまざまな契約と法 ②消費者の権利と責任	<ul style="list-style-type: none"> 契約が対等な当事者間の合意といえるための条件を理解する。 契約と消費者の権利・責任に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 家庭科など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設 	○		○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査 	

月	学習項目	■学習内容(ねらい) ・評価の観点	a	b	c	評価方法
		<p>定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・契約と消費者の権利・責任について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 			○	
	主題3 司法参加の意義 ①裁判所と司法 ②国民の司法参加	<ul style="list-style-type: none"> ■個人や社会の紛争を法に基づいて公正に解決するために必要なしくみと、国民が果たすべき責任を理解する。 ・司法参加の意義に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・政治分野の国会・内閣のしくみとも関連させ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・司法参加の意義について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
7	第2章 政治的な主体となる私たち	<ul style="list-style-type: none"> ■よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解する。 				
	主題4 政治参加と公正な世論形成 ①私たちと選挙 ②選挙の現状と課題 ③世論の形成と政治参加 ④国会と立法 ⑤内閣と行政 ⑥地方自治と住民福祉	<ul style="list-style-type: none"> ■民主政治を推進するために、私たちが果たすべき責任を理解する。 ・政治参加と公正な世論形成に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・中学校までに学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・政治参加と公正な世論形成について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
9	主題5 国際社会と国家主権 ①国家と国際法 ②国境と領土問題 ③国際連合の役割と課題	<ul style="list-style-type: none"> ■主権国家が並び立つ国際社会は、どのように成り立っているのかを理解する。 ・国際社会と国家主権に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・国際社会の特徴と課題について、幸福、正義、公正などに着目して考えている。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・国際社会と国家主権について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	主題6 日本の安全保障と防衛 ①平和主義と安全保障 ②日本の安全保障体制の変容 ③核兵器の廃絶と国際平和	<ul style="list-style-type: none"> ■日本国憲法の平和主義の下、私たちが果たすべき責任を理解する。 ・日本の安全保障と防衛に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・日本国憲法の平和主義をふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・日本の安全保障と防衛について、現代の諸課題を主体的に 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査

月	学習項目	■学習内容(ねらい) ・評価の観点	a	b	c	評価方法
10	主題7 国際社会の変化と日本の役割 ①今日の国際社会 ②人種・民族問題と地域紛争 ③国際社会における日本の役割	<p>解決しようとしている。</p> <p>■国際平和を実現するために必要な日本の役割を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際社会の変化と日本の役割に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 中学校までに学んだ知識や、地理・歴史など他教科で学んだ知識もふまえ、経済分野の国際機関の取り組みなどとも関連させ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 国際社会の変化と日本の役割について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
	第3章 経済的な主体となる私たち	<p>■公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解する。</p>				
	主題8 雇用と労働問題 ①私たちと経済 ②労働者と権利 ③労働環境と課題	<p>■少子高齢化による労働力不足が問題となるなか、活発な経済活動と労働者の働きやすさを共に成り立たせるために必要なことを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 雇用と労働問題に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 法分野の基本的な権利とも関連させ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 雇用と労働問題について、現代の諸課題を主体的に解決し、自分の将来のあり方について考えようとしている。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
11	主題9 社会の変化と職業観 ①日本経済のこれまでとこれから ②技術革新の進展 ③現代の企業 ④中小企業の現状と役割 ⑤日本の農林水産業	<p>■グローバル化・情報化・少子高齢化が進む現代社会において、将来の働き方をどう考えていけばよいか理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会の変化と職業観に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 歴史や情報など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 社会の変化と職業観について、現代の諸課題を主体的に解決し、自分の将来のあり方について考えようとしている。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
	主題10 市場経済の機能と限界 ①市場経済と経済運営 ②市場のしくみ ③経済発展と環境保全 ④国民所得と私たちの生活 ⑤経済成長と国民の福祉	<p>■公正で自由な経済活動を通して、市場が効率的な資源配分を実現できるしくみを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 市場経済の機能と限界に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 歴史など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 市場経済の機能と限界について、現代の諸課題を主体的に 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
12						

月	学習項目	■学習内容(ねらい) ・評価の観点	a	b	c	評価方法
		解決しようとしている。				
1	主題 11 金融のはたらき ①金融の意義と役割 ②金融のいま	■経済において、金融市場はどのような役割を果たしているのか理解する。 ・金融のはたらきに関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・家庭科など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・金融のはたらきについて、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○			・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	主題 12 財政の役割と社会保障 ①財政のしくみと租税 ②日本の財政の課題 ③社会保障と国民福祉 ④これからの社会保障	■少子高齢化が進むなかで、財政や社会保障を持続可能なものにするために、政府はどのような役割を果たしていくべきなのかを理解する。 ・財政の役割と社会保障に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・少子高齢化・人口減少などの社会背景をふまえ、幸福、正義、公正などに着目して考えている。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・財政の役割と社会保障について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○			・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	主題 13 経済のグローバル化 ①国際分業と貿易 ②国際収支と国際経済体制 ③外国為替相場の動き ④グローバル化する経済 ⑤地域的経済統合 ⑥国際社会における貧困や格差 ⑦地球環境問題 ⑧資源・エネルギー問題 ⑨国際社会のこれから	■経済がグローバル化するなかで、貧困や格差などの問題を乗り越え、すべての人が幸福に暮らすために、国際社会や私たちがどうあるべきか考える。 ・経済のグローバル化に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・地理など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、政治分野の国際機関の取り組みなどとも関連させ、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・経済のグローバル化について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○			・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
2						
3	第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち ①排出権取引を考える～地球環境問題 ②ベストミックスを考える～資源・エネルギー問題 ③ゲノム編集を考える～生命倫理 ④インターネットによる投票を考える～情報 ⑤フェアトレードを考える～国際社会の課題	■持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、現代の諸課題を探究する活動を行う。 ・これまで学んだ内容や課題を解決するための知識を理解している。 ・地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見いだしている。 ・これまでの学習を関連させ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述している。 ・現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○			・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・レポート作成 ・発表 ・定期考査

令和5年度 数学 I シラバス

数学科	科目名	数学 I	担当	
履修学科	情報技術科・建築科・インテリア科・デザイン科・調理科			
履修学年	第1学年	履修単位	3単位	
概要及び目標	数と式、2次関数、図形と計量およびデータ分析について理解させるとともに、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学の良さを認識し、活用する態度を育てる。			
評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	・数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	・数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。	・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	
評価方法	・各定期考査 ・ワークシート等	・各定期考査 ・ワークシート等	・行動観察 ・課題等の提出状況	
使用教科書	使用教科書：最新 数学 I（数研出版）			
その他	更なる学習効果を高めるため、定期考査前に対策プリントを活用する。			

	校長	教頭
押印		

令和5年度 数学I 学習計画

月	単元名		学習内容と方法	備考
4	第1章 数と式	第1節 数と式	1. 計算の基本 2. 単項式と多項式 3. 多項式の加法と減法 4. 多項式の乗法	
5			5. 展開の公式 6. 因数分解 7. 展開、因数分解の工夫	中間考査 (5月)
		第2節 実数	1. 根号を含む式の計算 2. 実数	
6		第3節 1次不等式	1. 1次方程式 2. 不等式 3. 不等式の解	期末考査 (6月)
7	第2章 集合と命題	部分集合 共通部分、和集合	1. 集合 2. 命題と集合	
		命題と証明	3. 必要条件と十分条件 1学期の復習	
9	第3章 2次関数	第1節 2次関数とグラフ	1. 関数 2. 1次関数のグラフ	中間考査 (10月)
10			3. 2次関数のグラフ(1) 4. 2次関数のグラフ(2) 5. 2次関数の最大値、最小値	
11		第2節 2次方程式と2次不等式	1. グラフと2次方程式 2. グラフと2次不等式	
12	第4章 図形と計量	第1節 三角比	1. 直角三角形 2. 三角比 3. 三角比の利用 4. 三角比の相互関係 5. 鈍角の三角比	
1		第2節 正弦定理・余弦定理	1. 正弦定理 2. 余弦定理 3. 三角形の面積 2学期の復習	
2	第5章 データの分析	データの整理 代表値	1. データの整理 2. データの代表値	学年末考査 (2月)
		相関	3. データの散らばり 4. データの相関	
3			総復習	

普通科	科目名	化学基礎	担当者	
履修学科	情報技術科、インテリア科、デザイン科、調理科			
履修学年	第1学年	履修単位	2単位	
概要及び目標	(1)自然に関する関心や探究心を高め、科学的に探究する能力と態度を育てる。 (2)自然の事物・現象についての理解を深める。			
評価基準及び方法	授業に取り組む姿勢 ノート・プリント・提出物 定期テスト			
使用教科書及び教材	高等学校 新化学基礎 (183 第一 化基/712)			
その他留意点	化学を含め、理科では推察、考察することが大事である。授業をただ聞くのではなく、常に自分の知識と照らし合わせ、自ら考えながら授業に臨んでほしい。			

学習計画

月	単元名	学習内容	備考
4	第I章 物質の構成 第1節 物質とその構成要素 ①物質の成分と分離(1) ②物質の成分と分離(2) ③化合物・単体と構成元素	混合物から純物質を分離、生成する方法や純物質は化合物と単体に分類されること、同じ単体でも性質が異なったものが存在することを理解させる。また、化合物や単体を構成する元素の検出法を理解させる。	
5	④成分元素の確認 ⑤原子のなりたち ⑥同位体とその利用 ⑦原子の電子配置 ⑧元素の周期律と周期表	物質は、元素に対応する基本粒子である原子からできていることや、原子の構成、同位体、電子配置を理解させる。	
6	第I章 物質の構成 第2節 物質と化学結合 ①イオン ②イオンからできる物質(1) ③イオンからできる物質(2) ④共有結合	物質の構成粒子である原子、イオン、分子のうち、イオンや分子について、原子からの生成や表し方を理解させる。	
7	⑤分子の構造と極性 ⑥分子からできる物質(1) ⑦分子からできる物質(2)	物質は、イオンからできる物質、分子からできる物質、原子からできる物質などに分類されることや、各々の物質の性質などを理解さ	

	⑧共有結晶 ⑨金属結合 ⑩金属の利用	せる。さらに、物質が何に利用されているかを認識させる。	
9	第Ⅱ章 物質の変化 第1節 物質と化学反応式 ①原子量 ②分子量・式量 ③物質質量(1) ④物質質量(2)	原子量、分子量、式量、物質質量の概念を理解させ、その扱いを学習させる。さらに、物質の量を表す方法としての物質質量の定義を理解させ、その扱いに慣れさせる。	
10	⑤溶解と濃度 ⑥溶解度 ⑦化学変化と化学反応式	質量パーセント濃度、モル濃度、溶解度など、溶液の濃度の定義を理解させる。	
11	⑧化学反応式と量的関係(1) ⑨化学反応式と量的関係(2) ⑩化学反応における諸法則	化学反応式の作り方、化学反応式と量的関係を理解させる。また、化学反応における諸法則を確認させる。	
12	発展 反応熱と熱化学方程式 ①化学変化と熱の出入り ②ヘスの法則	発生または吸収する熱量の総和は、反応の最初の状態と最後の状態によって決まり、反応経路に無関係であるというヘスの反応を理解させる。また、ヘスの法則を利用して、測定困難な反応熱をすでに測定されている他の反応熱を用いて求められることを理解させる。	
1	第Ⅱ章 物質の変化 第2節 酸・塩基とその反応 ①酸と塩基 ②酸・塩基の強弱と水素イオン濃度 ③水素イオン指数	化学反応には、水素イオンの授受に関連した酸と塩基の反応があることを理解させる。また、酸性や塩基性の強弱を水素イオン濃度によって比較できることや、中和反応の量的関係も理解させる。	
2	④中和と塩 ⑤中和の量的関係 ⑥中和滴定	化学反応には、電子の授受に関連した酸化還元反応があることや、酸化剤・還元剤の働き、金属のイオン化傾向の使い方を理解させる。	
3	⑦中和滴定と pH の変化	中和滴定曲線を理解させる。さらに、中和点の決定に用いる酸・塩基の指示薬の選択ができるようになる。	

理科	科目名	生物基礎	担当者	
履修学科	情報技術科、インテリア科、デザイン科、調理科			
履修学年	第1学年	履修単位	2単位	
概要及び目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			
評価基準及び方法	<ul style="list-style-type: none"> ・「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点に基づき評価する。 ・「知識・技能」「思考・判断・表現」についてはテストに基づき、「主体的に学習に取り組む態度」は提出物等で判断する。3観点については重み付けせず、等しくみていく。 			
使用教科書及び教材	第一学習社 「高等学校 新生物基礎」 授業に合わせて作成した 「プリント」			
その他留意点	進学希望者に対しては参考書、進学先の傾向問題、進路の講座等個別に指導を行う。			

学習計画

月	単元名	学習内容と方法	備考
4	・生物の共通性	<ul style="list-style-type: none"> ・生物にみられる共通性と由来 ・細胞構造の共通性 	
5	・生物とエネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギーと代謝 ・代謝とATP ・代謝と酵素 ・光合成と呼吸 	中間考査
6	・遺伝情報とDNA	<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝子・染色体・DNA ・DNAの構造 ・DNAの複製と分配 	
7	・遺伝情報とタンパク質の合成	<ul style="list-style-type: none"> ・タンパク質の構造と働き ・遺伝子の発現とタンパク質の合成 ・細胞と遺伝子の働き 	期末考査
8			
9	・からだの調節と情報の伝達	<ul style="list-style-type: none"> ・恒常性と情報の伝達 ・神経系 ・自律神経系の働き ・ホルモンの働き ・血糖濃度の調節 ・体温の調節 ・からだの調節と血液の働き 	
10	・免疫	<ul style="list-style-type: none"> ・病原体からからだを守るしくみ ・自然免疫 ・獲得免疫のしくみ ・獲得免疫の特徴 	中間考査
11	・免疫	<ul style="list-style-type: none"> ・免疫と疾病 ・免疫と医療 	
12	・植生と遷移	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな植生 ・植物と環境 	期末考査

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 植生の遷移と環境 ・ 植生の破壊と遷移 	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 植生と遷移 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遷移とバイオーム ・ 世界のバイオーム ・ 日本のバイオーム 	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生態系とその保全 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生態系 ・ 生物どうしの関係 ・ 生物どうしの関係と種の多様性 ・ 生態系のバランスと攪乱 	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生態系とその保全 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人間活動による生物の持ち込み ・ 生息地の破壊 ・ 生息地の分断化 ・ 生態系の保全とその意義 	学年末考査

月	学習項目	学習内容(ねらい)	a	b	c	評価方法
7	⑥慣性の法則 ⑦力と質量と加速度の関係(1) ⑧力と質量と加速度の関係(2) ⑨運動の法則 ⑩摩擦力 ⑪流体から受ける力	運動方程式の立て方を理解する。 ・摩擦力の特徴を理解し、それを含めた運動について理解する。 ・水圧と浮力の関係について理解する。 (1) 力の表し方とともに、さまざまな力のはたらき方を理解する。 (2) 質量と重さの違いを理解し、重力、弾性力を計算することができる。 (3) ベクトルを踏まえ、力の合成・分解・成分を理解する。 (4) 2力のつりあい、3力のつりあいについて理解する。 (5) ばねばかりを用いて、はたらく力の大きさを測定できる。 (6) 作用・反作用とつりあう2力を区別することができる。 (7) さまざまな運動状態における物体について、運動方程式を立てることができる。 (8) 静止摩擦力、動摩擦力の大きさを計算できる。 (9) 物体が受ける水圧や浮力の大きさを計算できる。 (10) 直角三角形の辺の長さの比を用いて、力の分解や成分を考えることができる。 (11) 力のベクトルの性質を踏まえ、つりあいの式を考えることができる。 (12) つりあう2力と作用・反作用の2力の違いを説明できる。 (13) さまざまな状態にある物体について、はたらく力を図示することができる。 (14) 実験データを分析しながら、力と加速度の関係、質量と加速度の関係を考えることができる。 (15) 運動方程式を用いて、物体がどのような運動をするかを考察できる。 (16) 摩擦力を受けて運動する物体の運動方程式を立てることができる。 (17) 浮力が生じるしくみを理解する。 (18) 日常での経験と照らし合わせて力のはたらきを観察し、物理的に理解しようとする。 (19) 力のつりあいや作用・反作用の法則を確認する実験などに意欲的に取り組んでいる。 (20) 物体の慣性について、積極的に実験に取り組み、理解しようとする。 (21) 力と質量と加速度の間にどのような関係があるかを予想し、主体的に実験に取り組んでいる。 (22) 摩擦力や浮力など、さまざまな力を含めた物体の運動について、物理的に理解しようとしている。	○	○	○	
9	第3節 仕事と力学的エネルギー ①力がする仕事 ②仕事の原理と仕事率 ③運動エネルギー ④重力による位置エネルギー ⑤弾性力による位置エネルギー ⑥力学的エネルギー(1) ⑦力学的エネルギー(2)	・仕事、仕事の原理、仕事率を学習し、物理における「仕事」について理解する。 ・運動エネルギーと仕事の関係について、式を用いて理解する。 ・位置エネルギーについて、仕事と関連づけて理解する。 ・力学的エネルギーの保存について実験などを通して学習し、法則が成り立つ条件とともに理解する。 (1) 物理における仕事、仕事率を計算することができる。 (2) 運動エネルギーの大きさを計算し、物体がされた仕事との関係についても式を用いて計算できる。 (3) 位置エネルギーを計算することができる。 (4) 落下運動などについて、力学的エネルギーが保存されることを、式で導くことができる。 (5) 力のする仕事が正、負、0になる場合のそれぞれについて説明することができる。 (6) 動滑車や斜面などを用いた場合の仕事について考えることができる。 (7) 運動エネルギーと仕事の関係について説明することができる。 (8) さまざまな状態における物体の位置エネルギーを考えることができる。 (9) 種々の物体の運動について、力学的エネルギー保存の法則を適用することができる。 (10) 力学的エネルギーが保存されない場合の運動も考えることができる。 (11) 日常における仕事との違いに留意し、物理における仕事について理解しようとする。 (12) 中学校の学習内容を振り返り、運動エネルギー、位置エネルギーについて意欲的に考えようとする。 (13) 運動エネルギーと位置エネルギーの両者から、エネルギーについて成り立つ関係を主体的に導出しようとする。 (14) 力学的エネルギー保存の法則に関連させ、振り子の速さの測定	○	○	○	授業態度、 発問評価、 定期考査、 実験レポート

月	学習項目	学習内容(ねらい)	a	b	c	評価方法
		などの実験に積極的に取り組んでいる。				
10	第II章 熱 第1節 熱とエネルギー ①温度と熱運動 ②熱と熱平衡 ③熱量の保存 探究3 比熱の測定 ④物質の三態 ⑤熱と仕事 ⑥エネルギーの変換と保存	<ul style="list-style-type: none"> ・熱運動、セルシウス温度、絶対温度を学習し、温度について理解する。 ・熱と熱量を学習したのち、熱平衡、比熱、熱容量、熱量の保存について理解する。 ・熱量の保存を利用し、物質の比熱を測定する。 ・物質の三態について熱運動と関連づけて理解し、熱膨張の現象を知る。 ・熱と仕事が同等であることを学習し、内部エネルギー、熱力学の第1法則を理解する。 ・熱機関と熱効率を学習し、可逆変化と不可逆変化について理解する。 ・さまざまなエネルギーの移り変わりを学習したのち、エネルギーの保存について理解する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 熱運動と温度との関係を理解する。 (2) セルシウス温度と絶対温度の関係を式を用いて理解する。 (3) 熱容量と比熱の関係を学習し、熱量の保存についての式を立てることができる。 (4) 熱量計などを利用する熱量の保存に関する実験について、正しい実験操作を実行できる。 (5) 物質の各状態における熱運動のようすを理解し、潜熱を計算することができる。 (6) 熱力学の第1法則を用いて、内部エネルギーの変化、外部とやりとりする仕事、熱を計算することができる。 (7) 熱機関について知り、熱効率を計算することができる。 (8) エネルギー保存の法則が常に成り立つことを理解する。 (9) 熱と温度の違いを説明することができる。 (10) 温度の異なる物体を接触させたときに、熱がどちら向きに移動するかを考えることができる。 (11) 比熱と熱容量の違いを理解し、熱量の保存を利用して比熱などの測定をすることができる。 (12) 水を加熱していくときの、物質の状態と構成粒子の熱運動の関係について説明することができる。 (13) 日常の現象に関して、熱と仕事の関係を説明することができる。 (14) 圧縮発火器を用いた実験において、脱脂綿が発火する理由を説明できる。 (15) 不可逆変化や可逆変化の違いを理解している。 (16) エネルギーの利用例について、日常のさまざまな事象や現象と結びつけて理解している。 (17) 日常でよく使われる温度と絶対温度との違いを認識し、温度と熱との関係を主体的に考えようとする。 (18) 熱量の保存を利用した比熱の測定実験について、積極的に取り組んでいる。 (19) 熱と仕事の関係について、日常における現象と結びつけて考えようとする。 (20) 熱力学の第1法則の意味を理解し、脱脂綿の発火など、具体的な現象に適用して考察しようとする。 (21) エネルギーとその移り変わりについて、日常での利用例と関連させて理解しようとする。 				授業態度、 発問評価、 定期考査、 実験レポート
11	第III章 波動 第1節 波の性質 ①波と振動 ②波の表し方 ③横波と縦波 ④波の重ねあわせ ⑤定常波 ⑥波の反射	<ul style="list-style-type: none"> ・波の伝わり方について理解し、振動数と周期の関係を学習する。 ・正弦波と波、振幅、波長、周期、振動数など、波の基本的な要素について理解する。 ・一定の時間経過によって移動した波について、波形を作図できるようにする。 ・横波、縦波の特徴や、縦波の横波表示について理解する。 ・波動実験器を用いた観察などを通して、重ねあわせの原理と波の独立性について理解する。 ・重なりあった波の作図などを通して、定常波が生じるしくみを理解する。 ・パルス波の反射、正弦波の反射について、反射の仕方、反射波と合成波の作図の仕方を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 水面に浮かぶ木の葉などの例をもとに、波と媒質について理解する。 (2) ひもを伝わる波の観察などを通して、波の伝わり方を理解する。 (3) 単振動の特徴を学習し、振動数と周期の関係を理解する。 (4) 波の基本的な要素を学習し、波の速さ、波長、周期(振動数)の間 				授業態度、 発問評価、 定期考査、 実験レポート

月	学習項目	学習内容(ねらい)	a	b	c	評価方法
	利用 ①太陽エネルギーの利用 ②原子核と放射線 ③原子力とその利用 探究7 発電電力量の推移	れや問題点などを理解する。 ・放射線の種類とその性質を学習し、原子力発電についてのメリットとデメリットを知る。 (1) 太陽エネルギーや化石燃料を用いた発電方法について理解する。 (2) 放射線の実体が何かを理解し、放射線の利用について知る。 (3) 原子力発電の基本的なしくみを理解し、どのような課題があるかを知る。 (4) 電気エネルギーへの変換を中心として、利用しているエネルギー資源について調べることができる。 (5) 放射線の種類とその性質を説明することができる。 (6) 原子力発電のメリット、デメリットを説明することができる。 (7) 日常生活と深く関わる電気エネルギーが、どのようにつくられているのかに関心を示している。 (8) 放射線や原子力の利用について、意欲的に学習しようとする。	○	○	○	発問評価, 定期考査, 実験レポート
	終章 物理学が拓く世界	・物理学が、日常生活や社会を支えている科学技術と結びついていることを理解する。 (1) 身のまわりのさまざまなもの(新幹線・橋・自動車・ICカード)が、物理と密接に関わっていることを理解する。 (2) 身のまわりのものについて、物理学的にそのしくみなどを考察することができる。 (3) さまざまな事物、現象に関心をもち、物理学と結びつけて考えようとする。	○	○	○	授業態度, 発問評価

体育科	科目名	保健	担当者	大城・真島・我謝
履修学科	情報技術科・建築科・インエリア科・デザイン科・調理科			
履修学年	第1学年	履修単位	1単位	
概要及び目標	○ 健康の保持増進の為の実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育て、個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。			
評価基準及び方法	○ 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点の内容をもとに評価基準を作成し、定期考査、小テスト、課題学習・新聞づくり、PowerPointの作成、実習または提出物等を中心に、総合的に評価する。 ○ 学期毎：A・B・C評価 年度末（総合評価）：5段階評価			
使用教科書及び教材	○ 教科書・・・（株）大修館書店「現代高等保健体育」 ○ ノート・・・（株）大修館書店「現代高等保健体育ノート」			
その他留意点	○ ICTの活用及び実験や実習も取り入れる。課題学習により、自分の意見をまとめ発表会等を出来るようにする。			

学習計画

週	単元名	学習内容	備考
1	オリエンテーション		
2	私たちの健康考え方と成り立ち	1. 健康についての多様な考え方 2. 健康の成り立ちとその要因	
3	私たちの健康のすがた	1. わが国における健康水準の向上 2. わが国における健康問題の変化	
4~5	生活習慣病の予防と回復	1. 生活習慣病とその種類 2. 予防から回復まで	
6~7	がんの原因と予防	1. がんとその種類 2. がんの予防	
8~9	がんの治療と回復	1. がんの治療と緩和ケア 2. がんと共に生きる社会づくり	
10	運動と健康	1. 健康から見た運動の意義 2. 健康によい運動のしかた	
11	食事と健康	1. 兼克的な食生活の意義 2. 健康によい食事のとり方	
12~13	休養・睡眠と健康	1. 健康からみた休養の意義 2. 健康からみた睡眠の意義	
14	喫煙と健康	1. 喫煙の影響 2. 喫煙への対策	
15	飲酒と健康	1. 飲酒に影響 2. 飲酒への対策	

16~17	薬物乱用と健康	1. 薬物乱用の影響 2. 薬物乱用の要因と対策	
18~19	精神疾患の特徴	1. 精神疾患の要因と種類 2. 精神保健の今日的課題	
20	精神疾患の予防	1. 日常生活における精神疾患の予防 2. 精神疾患の早期発見・早期治療	
21~22	精神疾患からの回復	1. 専門家による支援と治療 2. 社会環境の整備	
23~24	現代の感染症	1. 感染症とは 2. さまざまな感染症	
25	感染症の予防	1. 感染症予防の3原則 2. 現代の感染症対策	
26	性感染症・エイズとその予防	1. 性感染症・エイズとは 2. 性感染症・エイズの予防	
27	健康に関する意志決定・行動選択	1. 意思決定・行動選択とそれに影響を与える要因 2. 適切な意思決定・行動選択を実現する工夫	
28	健康に関する環境づくり	1. 健康を保持増進するための環境 2. ヘルス・モーションの考えにもとづく環境づくり	
29	事故の現状と発生要因	1. 事故とその被害 2. 事故の発生に関連する要因	
30	安全な社会の形成	1. 安全な社会の形成 2. 安全を確保する社会の取組	
31	交通における安全	1. 交通事故防止のための取組 2. 交通事故と運転者の責任	
32	応急手当の意義とその基本	1. 応急手当の意義 2. 応急手当の手順	
33	日常的な応急手当	1. けがに応じた応急手当 2. 熱中症の応急手当	
34~35	心肺蘇生法	1. 心肺蘇生法の意義と方法 2. 心肺蘇生法の習	

体育科	科目名	体 育	担当者	我謝・仲本・伊計・大城・真島
履修学科	情報技術科・建築科・インテリア科・デザイン科・調理科			
履修学年	第1学年	履修単位	3単位	
概要及び目標	選択制授業を実践することにより、生徒一人一人に運動の楽しさや喜びを深く味わわせ、生涯を通して継続的に運動ができる資質や能力を育てる。また、健康・安全面に留意し、各種の運動の合理的実践を通して、運動技能の向上を目指すとともに、けじめある学習活動や基本的な生活態度の育成を目指す。			
評価基準及び方法	○「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点の内容をもとに各単元で評価基準を作成，出席状況等を加味し総合的に評価する。 ○相互 評 価・・・・・・・・・・学習カード，学習ノート，課題レポート ○教師による評価・・・・・・・・・・テスト，観察 ○学期毎：A・B・C評価 年度末（総合評価）：5段階評価			
使用教科書及び教材	○教科書・・・ 大修館現代高等 保健体育（体育理論）			
その他留意点	○生徒の体調管理・器具や施設の安全管理を徹底する。 ○感染症対策を心掛けた授業の工夫 ○授業の自己評価や工夫改善ができるように支援する。			

学習計画

週	学習内容	備考
1~6	オリエンテーション・体育理論・集団行動・体力テスト・男女(体づくり運動)	
7~11	男子(球技：室内)・女子(水泳・陸上競技)	
12~16	男子(水泳・陸上競技)・女子(球技：室内)	
17~18	男女(体づくり運動)・体育理論	
19~24	男子(球技：屋外)女子(球技：屋内)	
25~27	男女(持久走)	
28~31	男女(武道・ダンス)	
32~35	男子(球技：屋内)女子(球技：屋外)	

芸術	科目名	音楽Ⅰ		
履修学科	全科 必修			
履修学年	第1学年	履修単位	2単位	
概要及び目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
評価基準及び方法	活動点（取り組み/頑張り点）・実技テスト・定期考査・提出物を総合的に判断し評価する。点数配分は学期毎に説明する。			
使用教科書及び教材	教科書・・・教育芸術社『MOUSA 1』 教材・・・楽譜・自作プリント・鑑賞ソフト（CD・DVDなど）・関連書物			
その他 留意点	生徒の主体的活動に重点を置き、鑑賞・歌唱・器楽・創作の各分野をバランスよく取り入れた授業を心がける。履修上の注意点は特になし。			

学期	月	単元名	学習内容と方法	備考
一学期	4	・校歌を歌おう	姿勢や口の開き方に気をつけのびやかな声で歌う	期末テスト（筆記）の実施 三線実技テストの実施
	5	・歌う喜びを感じよう （J-pop、日本歌曲、イタリア歌曲など）	校歌の鑑賞・斉唱 歌詞チェック・校歌写譜	
	6	・沖縄の音について知る	ペントニックについて学習する	
	7	・三線に親しむ ・オペラに親しむ ・世界の民族の音楽 ・合唱曲の選曲	工工四・譜読みに慣れる 段階的な曲を配布し個々のペースにあわせて練習 オペラの作品を味わう 「アリラン」「ホーミー」など世界の民族音楽の一端を知る 2学期に行う合唱コンクール曲を決める	

学期	月	単元名	学習内容と方法	備考
二 学 期	9～	・合唱曲を歌おう	パート編成 CD・キーボード等でのパート練習 指揮伴奏者との合わせ・表現の工夫	合唱取組シートの記入
	1 2	・合唱コンクール ・ハンドベル ・CUPS に挑戦	一学年合唱コンクールの実施 互いに鑑賞し評価する ハンドベルによるアンサンブルを行う 音楽によってリズムよく CUP を動かす	合唱実技 テストの実施
三 学 期	1 2	・ポピュラー音楽 (鑑賞) ・ギターに親しむ	BOHEMIAN RHAPSODY など ギター学習 音階・コードを覚える メロディー (タブ譜) を弾く 「第三の男のテーマ」 「ハッピーバースデー・トゥ・ユー」 「日曜日よりの使者」など	ギター実技テスト
	3	・CMソングを作ろう	CMソング制作を通し、創作の基礎を学ぶ	作品提出

音楽は 心を育む教科です

この授業では 演奏技術の向上だけではなく、音楽を通して、

みんなと音を合わせる喜び・楽しみを味わって欲しいと思います。

皆さん一人一人の積極的な授業参加・活動を楽しみにしています

教科名	外国語	科目名	英語コミュニケーションⅠ		
担当者	浜田睦子 宮平こうの 上江洲和香子 東内原麻希子				
履修学科	全学科	履修学年	第1学年	履修単位	3単位
概要及び目標	①日常的な話題について、英語で聞いたことや読んだことを理解し、表現する基礎的能力を養う。 ②積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。				
評価基準及び方法	①定期考査 ②小テスト ③提出物 ④発表 評価は3観点についてA・B・Cで評価し、その評価から総合的に5段階で評定 *定期考査の無届不受験は0点、後日受験は8割を目処に評価する。				
使用教科書	All Aboard! English Communication I (東京書籍)				

学習計画

	単元名 (授業時間数)		主な言語材料/働き	単元課題パフォーマンステスト等	
1学期	Warm-Up1, 2, 3	4	アルファベット・疑問詞のある疑問文 聞き直す・質問する	インタビュー	中間・ 期末考査
	Pre-Lesson1, 2	4	be動詞・一般動詞の現在形 説明する・理由を述べる	自己紹介	
	Lesson1	8	be動詞・一般動詞の過去形 説明する・描写する	Teams投稿文	
	Lesson2	8	現在進行形・過去進行形 説明する・報告する	ライティング	
	Lesson3	9	助動詞: can, will 話題を発展させる・描写する・ 共感する	ペアでのやり取り	
	Lesson4	9	to不定詞 理由を述べる・提案する・注意をひく	ライティング ペアでのやり取り	
2学期	Lesson5	9	動名詞 描写する・褒める・誘う		中間・ 期末考査
	Lesson6	10	受け身 要約する・報告する・描写する	プレゼンテーション	
	Lesson7	10	比較表現: -er, the -est, as-as... 要約する・相づちを打つ・聞き直す		
	Lesson8	10	現在完了形 注意をひく・推論する・提案する	デジタル新聞作成	
3学期	Lesson9	12	名詞を後ろから説明する分詞 説明する・提案する・依頼する	デジタルポスター作成 プレゼンテーション	学年 末考査
	Lesson10	12	関係代名詞: who, which 説明する・提案する	インタビューテスト	